

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】		
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と適切な自学自習時間の確保		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 3学期には校内を, 2学期には校内・校外を対象にし, 授業公開を行っている。校務, 持ち時間の関係から空き時間を活用して授業見学に行く回数が限られてしまい, 特に他教科の授業実践に触れるところまでできていない。 ・各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっており, かつ下位層の人数あるいは学習意欲に問題のある生徒数が増加し集団化する傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に1, 2学年においては, 毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない。 ・平日の学習時間が十分に確保されていないうえに, 休日においても時間をかけた学習がなされていない。 ・予習をして授業に臨み, 不明なところを復習するという学習習慣が十分に確立されていない。 ・指示待ち受身的で自分で学習できず, 塾に頼る生徒がみられる。 		
④達成目標 A: 達成できた。 B: 概ね達成 C: 達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に基づいた授業技術の向上を図るために, 教科内のみならず教科を越えてお互いの授業見学を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・より充実した「入口指導」を行うことにより, 卒業までの生活を見通して互いに切磋琢磨し学び合う学習集団の形成を図る。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の教育事情の変化について, 職員全員を対象とした現職教育の機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 2学年で毎日必ず自学自習する生徒の割合が90%以上 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者に対し, 学年と連携を取りながら早期継続的に指導を重ね, 学年末の成績不振者ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習時間平日「学年+2」時間, 休日「学年+5」時間の週計値(3年41時間, 2年34時間, 1年27時間)の達成率80%以上 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・1, 3学期に校内での授業見学・研究会, 2学期に地域に公開した授業見学・研究会を実施する。3学期には以上の公開授業研究会の内容を報告書にまとめる。 ・大学ないし教育研究機関から講師を招いて校内で現職教育会を設ける。 ・SSH事業の一環として, 生徒の学習意欲を高める新しい教材や授業方法について研究を重ね実践的に取り組む。 ・授業のなかでの学力差に対応した展開方法について, 学習連絡会をはじめ各所で協議研究を重ね実践的に取り組む。 ・定期試験終了後に教科会議において成績不振者を明瞭にし, 学年と生徒情報を共有しながら教科担任による面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のフレッシュマンキャンプ, 2, 3年生の学年集会等年度当初に行う「入り口指導」を充実させる。 ・国語・数学・英語において, 予習-授業-復習-質問の学習サイクルが確立するよう面談等で繰り返し指導し, 周期的に検証も行う。 ・毎日の自学自習開始時間とその場所が確定するように指導する。 ・部活動の顧問も, 上記学習サイクルの確立について指導できるように, 学年・担任と生徒の学習成績についての情報を共有する。 ・学習に対する内発的動機付けを高めるため, SSH事業の機会を大いに活用し, キャリア教育の機会を拡充する。 ・土曜講習について, 学年担任団が教科担任と連携し, 成績中上位の生徒が競って難問に取り組むような環境作りを行う。 		
⑥評価 *栃高評価満足度%は1(そう思う)+2(大體そう思う)の割合を表し, ()は5(わからない)の割合を表す < >...昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開を予定通り行った。授業公開中に英数国は他校職員を交え授業研究会を行い, 授業力向上の取り組みを行った。本校職員も自教科のみならず他教科にも積極的に授業見学を行った。 ・栃木県教育委員会指導主事を招聘し, 全職員を対象に新課程における評価基準等について, 全国的視野からの講義が行うことができた。 ・SSH授業の一貫として, 生徒の論理性創造性を高める取り組みが全教科でなされた。 ・学力差に応じた授業方法について, グループ活動を導入するなど, 各教科で研究授業が行われた。 ・教科主任から成る学習連絡会を中心に, 成績不振者を早期に発見し, 教科担任と密に連絡を取りながら指導できる体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生フレッシュマンキャンプでは, 学年集団づくりには成果を収めた反面, 事後の学習習慣確立に向けてはその継続性に課題を残した。2, 3年生の新学年入り口指導では, 学年集会を計画的に行い, 意識の向上に一定の成果を収めた。 ・特に学力不振者に対し, 全ての教科で教科面談が行われたが, 一時的に意欲は高めるもののその継続性には課題を残した。 ・毎日必ず自学自習する者の割合は, 10月1年52%, 2年58%。 ・目標学習時間達成者率は, 10月平日, 1年30%, 2年8%, 3年26%。土日, 1年7%, 2年6%, 3年25%。 ・特に英国数においては, 土曜講習のほか早朝学習に放課後講習を計画的に行い, 成績下位者への手当を充分に行ったが, 学力分布の上下差の縮小に結びついていない。 ・学習意欲向上のために, SSHの機会をキャリア教育と位置付け, 組織的に取り組んだが, 教科に向かう学習意欲の向上に直接結びつけられない生徒もまだ目立つ。 		
⑦学校関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振の原因究明及び早期対応のためにアンテナを高くすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜講座の内容と力点をわかりやすく外部に示す必要がある。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会の更なる充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年フレッシュマンキャンプでは, 「学びに向かう学習集団づくり」という観点からプログラムの再構成を検討する。 		

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現 【進路】【各教科】【各学年】			
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承	4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に、進路講演会、キャリア教育講演会、大学学部学科説明会を実施している。出張講義では、全職員での実施を計画している。卒業生との懇談会を企画し、学習意欲の向上を目指している。 東北研修、東京研修など、学習指導部との連携も強化し、進路意識の醸成に努めている。 			
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 3年次の適切な進路選択に向けて、1・2年次からの系統的な進路学習を行い、指導資料をデータ化する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内ランキングの見直しや適切な情報提供を行い、進路指導委員会を充実させる。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事や土曜講座の計画、実践により進路意識を高揚させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年・教科で模試結果の分析を行い、そのデータを踏まえて、個々の生徒や学年全体の指導の改善を強化する。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員用の進路シラバスを作成することにより、本校独自の進路指導ノウハウの継承に努める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報の充実と、その利用環境の改善を図る。 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア学習会」や「進路講演会」、「出張講義」を実施する。 三年間を見通したLHRの計画・実践および土曜講座を充実させる。その実践の中で、単に高校生活だけではなく、将来を見通した進路学習計画を模索する。 各学年のLHRの資料や土曜講座の計画、学年独自の進路関係行事の実施記録および長期休業前指導などの使用資料を電子データで整理し、進路学習の体系を確立する。 各学年毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を明文化することにより職員間の共通理解を図る。 			
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 %は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価②：生徒 62%(5) <65(8)> 保護者 68%(16) <78(11)> 栃高評価④：生徒 83%(5) <80(6)> 保護者 94%(1) <94(0)> 各学年で3年間を見通した進路学習は実施されているが、進路シラバスの充実と指導資料の体系化が必要である。 各学年で土曜講座の工夫があるがさらなる充実の余地がある。 進路関係行事に関しては、講演会や卒業生との懇談会などの意義ある内容の提供が増え、さらに充実した。 教職員用の進路シラバスに着手はしたが完成はしていない。 			
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が常に同質の指導を受けられるように、ノウハウ継承のマニュアルとしての教員用シラバスの完成を是非実現してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃高の進学指導に関するアピールポイントを十分に検討しPRすることで周囲の期待がさらに高まるのではないかと。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路学習に関する情報の管理と学年への提供。 1年次の文理選択への情報提供のさらなる充実。 生徒、教員の動きを踏まえた進路シラバスの作成。 SSHや出張講義、講演会を進路・学習指導につなげる工夫。 			

①重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】
②重点課題	5 活発な図書館活動の実施	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校間交流、読書会開催、学校祭参加などにより徐々に図書館活動が活発化している面が見られる一方、貸し出し数や談話会参加者の減少など生徒自らの積極的な関わり方については途上段階にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣についての指導（健康指導）について、生徒が十分理解して自らの心身の状況に応じて実践しているとは言えない現状である。 不登校傾向生徒に対しては担任、学年が相談係と連携し情報交換会の開催等組織的に対応している。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 貸し出し数目標 5,000 冊 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日運動を継続する生徒 80 %
	<ul style="list-style-type: none"> 談話会 1 回あたりの参加者数 20 名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月発行する「保健だより」の内容の充実と活用
	<ul style="list-style-type: none"> 一般生徒も含めた読書会年間 5 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各クラス出席率 99.5 %
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 学校間交流を充実させる。 掲示板や放送等を使った広報活動を継続的に行う。 ホームページを継続的に更新する。 「談話会」を継続し「読書会」の拡大をはかる。 新聞記事配布を継続的に行う。 1 年生オリエンテーション時に課題図書を配布する。 閲覧室・多目的ホールをさらに充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活習慣に関する指導計画を作成し、当該教科や保健室利用生徒に適宜指導し実践を促す。 保健だよりの内容を充実させ、健康に関する情報を活用させる。 不登校傾向生徒の情報を事例研究会等で共有し迅速で適切な対応に努める。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 思う+2 大体そう思うの割合を表し、 () は 5 わからないの割合を表す < > … 昨年度データ	<p>栃高評価⑦：生徒 34 % (7) <34(6)> 保護者 39 % (22) <47(11)></p> <ul style="list-style-type: none"> 貸し出し数 3396 冊 (2 月 24 日現在) 談話会の内容により、集まる生徒数にバラツキがある。 読書会は年間 4 回実施できた。 栃高評の結果からみて読書活動の活発化対策はまだ不十分と思われる。 談話会 1 回あたりの参加者数は 20 名を超えたこともあるが、平均参加者数は 20 名をたまわった。 	<p>栃高評価⑧ 生徒 56% (5) <51 (6)> 保護者 80% (7) <76 (7)></p> <ul style="list-style-type: none"> 運動実施状況 週 3 日以上 1 年 70% (+2) 2 年 63% (+4) 3 年 53% (-15) 3 年の実施率が昨年を 15% 下回った。 保健だよりの内容を工夫したことや、HP への掲載等により、生徒・保護者の意識が高まった。保健だよりの活用については課題が残る。 今年度出席率 99.5 % を達成したクラスおよそ 36 % (64/180) 作年度出席率 99.5 % を達成したクラスおよそ 26 % (46/180) 4 月から 2 月の 10 ヶ月間の出席率 99.5 % 達成率 26 % から 36 % に上昇。昨年比 18 クラス増。
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとっては学習時間と読書時間の両立が課題になるのではないかと。両立のための工夫を促す指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の遅れにより不登校につながる生徒への早期対応を工夫し、心と体のバランスを良好に保つことのできる生徒の育成を期待する。
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書会の参加を図書委員だけでなく、一般生徒に対しても引き続き「としょあんない」「ポスター」「校内放送」などで呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の継続等、健康的な生活習慣について理解させ自ら実践するよう指導する。 「保健だより」の内容を工夫し、より多くの生徒に活用させたい。ホームページ等への掲載も継続したい。 不登校生徒の援助や理解についての適切な対応方法の研修実施。 相談活動の更なる啓発。

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特活】	
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組む支援体制の整備		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭実行委員会(生徒)の主導により各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画しているが、計画的に準備が進められているとは言い難い部分もある。 クラス企画の文化性も高まり、娯楽的企画とのバランスもよくなってきた。HPの活用で学校祭のアピールを地域社会に向けて発信することで年々来場者が増加している。 クラス・学年・学校全体の一体感を育くむことができている。 		<ul style="list-style-type: none"> 文武両道を目指し多くの生徒が学業と部活動、学校行事、体験活動に取り組んでいるが、両立を目指し学習時間を確保することや進路の実現を目指して悩む姿も少なくはない。部活動加入率も高く、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動にも積極的であるが、残念ながら途中で部活動を離れていく生徒も見受けられる。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 入場者目標延べ2,700人(雨天時2,000人) 	A	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率 80% 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な文化委員会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室(スキー・スノーボード教室)参加目標人数 80名以上 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 校内公開の完全実施 	A		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にし文化委員の指導性を高め、校内公開を現実のものにする。 生徒実行委員会だけでなく、各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 本校 HP を活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。 学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 部活動と学業の両立支援の通知を配布する。 年度初めの部活動加入率の調査と、年度末の時点での退部状況の調査を実施する。 移動教室やボストン海外研修においては、その魅力を十分に事前告知することにより、目標人数を達成する。 体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。 国際理解委員会による交歓会等の行事をとおして、国際理解委員会活動の活性化を図る。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、 ()は 5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ	<p>栃高評価⑩ 生徒 92%(2)<89%(3)> 保護者 100%(0)<100%(0)> 入場者 2,532名 (過去最多を更新) 昨年度 2,494名</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会とクラス文化委員の連携がうまく図られ、クラス企画の校内公開を実現することができた。内容もさらに充実し生徒・保護者ともに満足度が高かった。 各種専門委員会も様々な活動場面が増え、組織全体の機能が活性化してきている。 		<ul style="list-style-type: none"> 移動教室 スキースノーボード教室参加予定者 95名、昨年より10名程増加。例年同様積極的な参加状況である。 部活動加入率4月末 79% 11月末現在 78% 昨年秋以降に現3年の加入率が下がったため、年度当初 80%に達しなかった。さらに、1・2年の4月からの推移でわずかに減少している。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒保護者の満足度も高く、内容の充実が伺える。高い質を維持するためのさらなる工夫を期待する。 		<ul style="list-style-type: none"> 耐久レースの完走率の高さに見られるような生徒の積極的な取組には頼もしさを感じる。今後も行事を大切にしたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 校内公開をより一層充実させていくための計画と実践。 クラス企画の内容の検討。(1年ゲート制作) 学校祭のクラス企画における予算の組み方の工夫。 		<ul style="list-style-type: none"> リーダー研修会のプログラム内容の一部検討。(飯ごう炊飯) 現1・2年の加入率が維持できるような支援体制の構築。 	

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上	10 校内生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活は規律や社会的ルールを学ぶ場であるという認識をもち生徒自らが法を遵守する態度や生徒の社会的自己指導能力を育成している。 規則違反や問題行動に対しては全ての教職員が指導できる校内体制を確立し継続的な指導を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> 教員や保護者等の指導助言により規範を守り行動することから自ら規範に従って行動することへと規範意識の醸成をはかり育てていく指導を実践している。 人権尊重、正義感や公正さ、命の大切さ等を取り上げた教育活動や他者との関わり方等社会性を身につける取り組み、体験学習やボランティア活動等を行っている。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 法令違反ゼロを目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生ゼロ 	C
	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の苦情ゼロを目指す。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話規定違反生徒ゼロを目指す。 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 日常の生徒観察を注意深く行い問題行動、逸脱行為の未然防止に努める。 逸脱行為については全職員が共通理解を持ち『その時、その場で注意』を心がけ指導を行う。 新聞記事などの交通事故事例を参考に被害事故に遭わない、加害事故を起こさない指導を日常的に行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 教室巡廻、面談等による生徒理解などの開発的、予防的生徒指導の実践により、いじめ、いやがらせの早期発見や携帯電話規定違反予防を徹底する。 様々な場面を通して他者の権利を尊重する精神の醸成に努める。 『いじめは人間として絶対に許されない』という意識を生徒一人ひとりに徹底させる。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	栃高評価⑫生徒 77 % (3) < 73 % (3) > 保護者 88 % (5) < 84 % (2) > <ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生で問題行動(法令違反) 2件発生。昨年比-1件 交通関係苦情、通学マナー苦情計6件。昨年比±0件 交通事故7件発生。昨年比+2件 		栃高評価⑬生徒 78 % (2) < 71 % (4) > 保護者 95 % (1) < 82 % (7) > 栃高評価⑭生徒 75 % (3) < 72 % (5) > 保護者 88 % (2) < 80 % (8) > <ul style="list-style-type: none"> いじめ1件発生。昨年比-1件 携帯電話規定違反生徒、20名指導。昨年比-8名 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 評価の基準が高いところにあるのは理解できるが、この項目に「C」が並ぶと栃高生の規範意識が低いように思われないか。栃高生は総じてよい生徒である。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめはあってはならない。目標は「ゼロ」でよいが、早期発見や情報交換の精度を高めれば高めるほど発生件数は増加することになり、ジレンマが生じる。これに対処する目標設定の工夫を求める。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 積極的生徒指導を実践し問題行動防止に努める。 交通ルール遵守、マナー向上を徹底させ事故防止に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施や細かな生徒観察によりいじめの早期発見早期指導に努める。 スマートフォン等の正しい使い方講座の実施。 	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下に落ちている紙くずの放置，教室前廊下のロッカー上が私物で散乱している教室等が見られる。 ・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが，可燃ゴミをさらに減量したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」を年4回発行 ・一日体験学習募集ポスターの送付 ・中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問 ・ホームページの定期的な更新→ 月間アクセス数 約10,000 ・「PTAだより」を年2回発行 ・PTA総会，PTA支部会，学年研修会において進路指導・学習指導・生活指導等の取り組みや現状についての情報の提供 ・PTA評議員会を年4回開催
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・可燃ゴミの量を月間 1,000 kg 以内 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数 30 校
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの放置，ロッカー上の私物の散乱等の指摘ゼロを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの月間アクセス数 11,000 件
		<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」のカラー化をメインとする内容の充実
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会による清掃状況の確認と，清掃用具点検を実施する。 ・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。 ・環境美化委員が学習環境を整える意識の啓発を促し，月に一度教室環境をチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ上での一日体験学習への案内 ・中学校訪問による積極的リクルート活動 ・学習塾等への訪問による情報収集とリクルート活動 ・ホームページ更新頻度の分野別実績公開 ・「PTAだより」のカラー化と内容・構成の改善
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1そう思う+2大体そう思うの割合を表し，()は 5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<p>栃高評価⑮生徒 62 % (4) <60 % (5)> 保護者 47 % (23) <65 % (14)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が教室に来室する機会が増え、教室周辺の学習環境の改善意見が寄せられた。 ・可燃ゴミ合計量 9,717 kg (月平均 971 kg・4～1月)であった。合計量が昨年比約7%減少した。 ・月例大掃除後の教室環境チェックを実施した。ロッカー上の散乱等は概ね良好であった。 	<p>栃高評価⑰生徒 75 % (7) <71 % (7)> 保護者 90 % (1) <86 % (3)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問は栃木市，壬生町に加え小山市，鹿沼市の中学校 37 校と交渉し，21 校に訪問することができた。参加した中学生や保護者からの反応は良好で，訪問した学校の生徒達には十分な PR となった。 ・HP のアクセス数は4月～12月の平均で 16,140 件/月。上半期(～8/31) 516 件/日→下半期(～12/9) 578 件/日と上昇傾向にある。教育活動のそのものと HP の内容の双方の充実が表れていると評価できる。 ・「PTA だより」のカラー化をはじめとする紙面の改善により、保護者より好評価をいただいた。
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育についての保護者へのPR不足がうかがえる。生徒と学校の努力を保護者にもわかりやすく伝えるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日体験学習での栃高生の全体説明や懇談での丁寧な対応が好評である。こういう生の声もHPに反映させてはどうか。
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別回収による，可燃ゴミの減量を定着させる。 ・エコキャップのリサイクル活動の継続と，節電に対する意識を高め，環境に配慮した校内活動を実践できるようにする。 ・教室や廊下，ロッカー上の整理整頓や清掃については，HR 担任や清掃監督者と連携して適切に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問を広報系の活動にとどめず，全職員で行う形にすればもっと訪問校を増やすことができ，広報活動の充実につながる。 ・学習塾への訪問と情報収集の実現。 ・教育活動とホームページの内容ともさらなる充実を図る。 ・「PTA だより」がより発信力を持つように会員・係との連携を密にして内容の充実をはかる。